



学校教育目標『つなげる 続ける 創り出す』

令和6年5月22日

横浜市立三ツ境小学校

# 三ツ境小だより 6月号

## 「目的」と「目標」の違いは？

校長 飯田 雅人

あるビジネス書を読んでいたら、「あなたは、目的と目標の違いをきちんと説明できますか？」という項目がありました。皆さんはご存じでしょうか？

簡単に言うと、こういうことだそうです。例えば、「ボートに乗って、3日以内にある島へ到着しなくてはならない」とするとします。押し寄せる荒波を何とかしのぎ、懸命にオールを漕いで、もう少しで島へたどり着くというところで、突然の嵐に見舞われ、スタート地点まで戻されてしまいました。さて、あなたはどう思いますか？ほとんどの人が「もうこんなことやっていられない」、「面倒くさいから、やめてしまおう」と思うのではないのでしょうか。そう思うのも当然です。なぜなら、この場合、目標はあっても、目的がないからです。目的とは、「何のために、なぜやるのか」という行動の理由であり、目標とは、「いつまでに、何を、どうする」という手法のことです。つまり、この場合、「3日以内に島へ着く」という目標だけがあって、「何のために島へ向かうのか」という目的が欠けているのです。では、こんな目的を加えたらどうなるのでしょうか。「3日以内に島に着かないと、100年に一度といわれる日食を見ることができない」とすると、「何としても日食を見たい」という目的が生まれ、「3日以内に島へたどり着く」という目標もあります。たとえ嵐で押し戻されても、必死にボートをもう一度漕ぎ出すでしょう。このように、人は目的と目標がそろった時に、初めて自主的に、粘り強く行動できるようになるそうです。まわりで行動がなかなか起こせない人を見つけたら、あれこれと注意する前に、この2つの要素、「目的」と「目標」がきちんとそろっているかを確認してみるのもよいかもしれません。

以上は、大人の話です。私は、子どもの場合は、大人と違って圧倒的に経験値が不足しているので、具体的な目的を描くことが難しいと考えます。それなので、そのまま当てはまるとは思いません。上記のことが子どものうちからできる人は、結果として大人になったときにプロの一流スポーツ選手になっているなどの一部の方でしょう。しかしながら、子どもでも「プチ目的」なら、できるかもしれません。例えば学校だったら、～ができたらか何かの特典がもらえとか、席替えができるとか、お楽しみ会ができるとか……。子どもにやる気を起こさせる手段として、時には必要でしょう。どんなに立派な学級目標をつくっても、実践がともなわないと意味がありません。目標を達成するためには、時には目に見えるごほうびが必要だということです。それぞれのご家庭ではいかがでしょうか？

6月1日（土）には、三ツ境スポーツフェスティバルが行われます。私の目標は、「大成功だったね」といえる運動会にすることです。その目的は、スポーツフェスティバルが終わった後の皆さんの笑顔が見たいからです。ごほうびをもらうことだけが目的になってもいけないのですが、頑張った子どもたちに何かごほうびがあってもよいかもしれませんね。